

#### (4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
院等	事業名：学び続ける教員育成を目指す地域とのコラボ研修の可能性
コラボ研修プログラム	研修等名：【NITS・常葉大学教職大学院コラボ研修③】 実社会で生きて働く力を考える
支援事業報告書	開催日時：令和5年1月27日(金) 午後2時～4時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター 〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町 6-1 参加人数：一般参加者(20)、教職大学院生(17)、大学教員(4)、計 41 名

**内容：** ※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

「学び続ける教員育成を目指す地域とのコラボ研修の可能性」をテーマに年間3回の研修を計画、実施してきたが、第3回目となる今回は、「実社会で生きて働く力とは何か」を考えるために、講師に県内のベンチャー企業経営者として活躍されている西村やす子氏をお迎えした。また、参加対象者も、テーマに即し、教育関係者に限定せず、民間企業人、PTA、地域の方、学部生等に広げ、年代や立場の垣根を越えて講師からの提言を元に幅広く、自由な議論ができるように設定した。

西村氏は、「実社会で生き抜く力とは？—予測不能な時代のキャリアの作り方—」を演題に、自身が全くゼロから立ち上げた地元でのオーブ栽培と、地域「共創」での高齢者サービスという2つの事業における辛苦の歩みを熱く語られた。スタートアップと呼ばれる日本のベンチャー企業は世界でも大きな遅れを取っているが、そうした状況下での氏の長年に渡る挑戦は、新たな創出とイノベーションに溢れ、予測不能な時代をいかにして生き抜いていくのかという示唆に富む刺激的な内容であった。特に、豊かな発想力、簡単に諦めない心、周囲を巻き込んでいく共創の姿勢は、正に自称「スーパーポジティブ」そのものであった。未来を担う子どもたちに身につけさせたい資質として「自分の頭で考える」「主体的に生きる」の2つを挙げられたが、厳しい経済界で生き抜いている経営者の経験値に基づく指摘は説得力があり、教育現場で子どもたちに求める資質・能力とも一致していた。

後半のグループワークは、教職大学院生のファシリテートのもとで、「生き抜く力とは」をテーマに立場の異なる4人グループを編制し議論した。自分の考えを付箋に書き、円形ホワイトボードに貼りながら整理し、相互に考え方の共通点や相違点を話し合いながら深めていったが、初めての出会いや年齢層の違いが新鮮であったようで、どのグループも楽しそうであった。最後にお互いのホワイトボードを見合うことで発表とし、講師にまとめていただいた。

#### **成果：**【事後アンケート結果】

- 1 本研修全体を通して、この研修は有意義でしたか：とても有意義（84.8%） 概ね有意義（15.1%）
  - 2 グループワークの内容について：大変よかった（78.7%）、概ねよかった（21.2%）
- <自由記述より>「生き抜く力という普段話せないことをじっくりと話し合えた」「自分のキャリアステージについて考えるきっかけになった」「普段と違った視点で教育を考えることができてよかった」「地域の活性化を考えるよい機会だった」「自分がやりたいことを見つける、協働してくれる人を探す大切さを感じた」「前向きな気持ちで仕事に臨めるようになる言葉をたくさんいただいた」「現場を離れた意見交換は新鮮且つためになるものだった」

**アイデアや工夫したこと：** ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- ① 院生や一般教職員にとっては馴染みの薄いベンチャー企業経営者を招聘し、日頃とは違う視点から子どもたちに身につけたい資質・能力を考える研修機会としたこと。
- ② 本年度のコラボ研①②に引き続き、本学の地元である清水七中校区小中一貫校（小2、中1）校長の理解と協力を得て、教員とコミュニティ・スクールの学校運営協議会委員とが、同じ講演を聴講した上で議論する機会を提供できた。教職大学院の新たな地域連携の具体として提案性がある。
- ③ 「社会に開かれた教育課程」実現のためには、教員の視野を広げ、多面的な物の見方、考え方や豊かな発想力を身に付けることが重要であるが、こうした教育以外の講師やグループでの出会いの創出は、その一助となるだろう。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



講演会の様子



グループワークの様子

各グループ意見を出し合った後  
他のグループの意見を見て回ることで理解を深めました。

